

概要

平成23年度第3回伊賀地域高等学校再編活性化推進協議会

平成23年12月19日（月） 18:30～20:10 三重県伊賀庁舎

- 1 あいさつ(石田会長)
- 2 報告 第1回協議会の概要
- 3 協議

(1) 伊賀地域における高等学校の今後のあり方について

会長 本日の協議は、生徒数から想定すると平成27年度に27学級程度になることが予測される中で、資料（平成18年の協議のまとめ）で示された4校の形をベースに議論をしていただきたい。前回、適正規模の3～8学級は県全体の基準ではあり、6学級あたりがこの地域の標準ではないかという議論があった。また、本日の資料で示されたように、学校が3～4学級になったとき、機能を果たしうるのかという問題が出てくる。あけぼの学園高校については、学校の性格上、存続が必要という声があると同時に、再編の対象とした場合に、生徒たちをどこで受け入れるかが問題となる。名張桔梗丘高校と名張西高校の独自性はどこにあるのかという部分ももう一度確認しなければならないと思っている。これらのことについて、議論をいただきたい。

中谷委員 名張地域の者として2校の違いがはっきりと出せるよう考えてすすめている。学級数が減ると活性化できないことは分かるが、2校を1校にすると選択肢が減り、伊賀の子どもたちにとって困ったことになるのではないか。1校は普通科として残し、もう1校は子どもたちのニーズに合う違う形の学校に考えることが必要だと思う。

藤岡委員 選択肢が多い方がいいというのは事実である。あけぼの学園高校は小規模だが、不登校の子や特別支援の必要な子の受け皿になっており、なくてはならない存在である。名張に同様の学校があれば、名張の子どもたちには選択肢の一つとして大きな位置を占めると思う。再編の議論の中にあけぼの学園高校は入ってこないと思っている。

上島委員 どのように活性化することによって地元の子どもたちが進学できる学校がどうあるかということが一番の問題である。最低でも6学級などという数の問題だけで終わることは危険であり、多様な子どもたちを全部引き受けてもらうには、どのようにやっていくべきかについての議論をしないと前に進まないと思う。

会長 そのような学校を作るには、3～4学級規模だと2校が同じようなレベルになるので、7学級くらいの規模で特進クラスを作るなど、特色ある教育をする方が実現しやすいのではないか。

上島委員 7～8学級規模にまとめるのは聞こえがいいが、実際にはできにくい。4～5学級でもそれなりのことをしていく方がいいと思う。どこかで思い切ったことをしていかないと、特色化を学校だけに任せていてはだめなのではないか。

会長 伊賀全体で27～28学級となる時に、名張桔梗丘高校と名張西高校は、合わせて7学級くらいにしかない。それを3～4学級で2校存続して、特色を持たせることができるのかということである。

味岡委員 名張西高校と名張桔梗丘高校の2校を存続すれば、上野高校を減らすことになるが、北部と南部のバランスもあるので、できないと思う。2校を1校にまとめて、その中で特進クラスなどを作って普通科を存続させる方が、学校は活性化すると思う。

田山委員 旧上野市は交通が不便で地元の高校に行くしか選択肢がない。少子化の中、3校を統合して総合専門高校を作ったのは大英断だったが、この学校がこれから活性化するよう大事にしていかなければならないと思う。今後の学級数の予測から考えると、名張と上野では距離があるので、名張で何らかの特色を出すよう考えていくしかない。名張にも進学校が必要という保護者のニーズは高いと思うので、周囲の私立に

負けない高校をつくることも必要である。少子化は避けられないし、学級数が減れば活力がなくなるという現実をとらえて、この協議会をまとめる方向に持っていく方がいいのではないか。

味岡委員 高校再編は、設置者である県教育委員会の意志として、あるべき方向をもっとはっきり出してほしいと思っていた。県教育委員会が今日初めて4校という再編活性化のイメージを出してきたのは、県教育委員会の意志ではないかと思うがどうか。

中谷委員 この「4校案」は以前からも出ていたが、これは再編ありきの議論ではなく、過去にはこのような議論もされたという程度の認識でしかいなかった。

山口副教育長 この案については、名張、上野、阿山の3地域で県民公聴会を開いて意見を聴き、協議会としてまとめたという経緯はご承知のとおりだと思う。その後も、名張分科会を開いて議論を重ねたり、名張地域でフォーラムを開いて考えていただいたので、この案を県教育委員会が唐突に出してきたというのはあたらないのではないか。また、これまでの協議会でもこの資料は必ず出している。新たに学校が名張地域に立地したことや交通機関が第三セクターとなって運賃が上がり中勢への進学者が増えたなどの状況変化はあるが、一方、経済的に不況であっても小学校から中学校へ上がる段階で県外に出る生徒の数は変わっていないなど、状況把握は必要である。

池原委員 3～4学級の普通科で2校とも特色を出しなさいと言ってもらったとしても、両校が必死になって生徒を獲得するので結果として普通科である以上、同じような学校になる。学校現場にいる者として、そのように努力するのは当たり前のことである。

中谷委員 2校を統合して8学級の学校にするとして、どちらになるか分からないが、残った校舎を利用して、少人数でも運営できる学校を作る選択肢は残っていないのか。

山口副教育長 今までの議論で、県教育委員会では昼間定時制について提案させていたが、なかなかうまくいかなかった。検討しなかったということではない。

上島委員 名張地域では地元の学校に進学したいと思っている子どもたちは多いが、ニーズに合った学校がない状況がある。議論する場も大切であるが、本当にニーズに込んでいるのかまだ不十分なところがあるので、もっと広く意見を聴くということも必要だと思う。また、普通科志向が多い中で、普通科の割合が低い状況があり、本当に子どもや保護者のニーズに込んでいるかということは考えなければならない。

木平委員 生徒の数からすれば、結論として4校になるのかも知れないが、学校の中をどうするかという議論が大切である。特色のある高校で、生徒の一人ひとりがスペシャリストになれる伊賀地区の学校になるならば賛成である。

会長 話の進め方として、学校を減らす「数の議論」ではなく、名張地域で子どもたちの多様なニーズに対応できる高校教育をどう提供するかということだと思う。そのあたりが方向性として出せれば、これまで議論してきたことも活かされると思う。

山森委員 同意見である。再編が先か活性化が先かで、活性化の方に議論が行くと違う意見も出てくると思う。また、人数が多いと活性化するかというと、14学級の高校を卒業したが、必ずしもそうではなかった。ただ、いじめなどで受験する学校を変えたいという生徒がいることなども考えると、選ぶ学校があった方がいいと感じる。

山口副教育長 選択肢が話題になっているが、平成18年度の議論で「選択できない子ども」がいることの方がたいへんだという話があった。そういう意味であげぼの学園高校が残っており、きめ細かな指導ができるよう職員を多く配置できる体制をとっている。しかし、普通科が3～4学級の規模になっても、同じような体制がとれるわけではない。

会長 本日の意見を総括すると、学級数が減少する中で普通科高校が3校あるが、名張西高校と名張桔梗丘高校の2校で7学級程度になることは避けることができない状況

である。そうすると3～4学級規模となるが、地域外に出なくても様々な学力の生徒にそれぞれ合った大学に進学させていく機能を維持するためには、3～4学級規模でいいとはならないのではないか。普通科、専門学科、普通系専門学科なども含めて、いろいろなチャンスが提供できるイメージの高校再編、活性化のためには、結果として普通科2校のイメージで考えた方がいいと本日の議論を通じて感じた。次回は普通科の全国、三重県、伊賀地域の割合や2校の進学状況を資料として出していただいて議論し、最終的な方向性を提示できればと考えている。